

## 平成 27 年度町政懇談会記録（要旨）

開催日：平成 27 年 10 月 25 日（日）

開会：午前 10 時 00 分 閉会：午前 11 時 50 分

場所：笹尾西 1 丁目集会所

参加者：男 13 人、女 15 人 計 28 人

町職員：町長、副町長、総務部長、財政課、町民課、政策課

### 《 懇 談 》

男性

我々高齢者から町の行政に対してお願いしたいことがあります。やっぱり高齢者ですから医療と介護に一番関心があります。医療で言いますと、最近かかりつけ医だとか在宅医療だとか、かかりつけ薬局を持ちましょうといった話がよく出ています。近隣で言うと四日市のいしが在宅クリニック、いなべ総合病院、それから桑名の歯医者への訪問治療などの話を聞くのですが、近隣の自治体がこういっている中で東員町は在宅医療・かかりつけ医という、我々にとって切実な問題についてどのようにお考えになっていますか。

あと介護についてですが、我々高齢者は介護のお世話になりたくないというのが本音です。町としてもいろいろな介護予防の講座とか教室を企画していて、私もよく参加させていただいていますが、前から町長に申し上げているのですが、なかなか参加者が集まらない。例えば今月、山田の集会所で「歯周病予防教室」というものがあつたんです。細かいことは幹部はご存じないと思いますが、定員が 70 名で集まった人は 20 名ですよ。それからその後にあつた何とか予防教室というものは定員 20 名のところ 4 名。参加者が極めて少ないですね。

行政が工夫して、住民の要望をもっと聞けば、さきほどの健康寿命ももっと延びると思います。それともうひとつ、長寿福祉課と我々住民で行っている「健康塾」という介護予防事業があるんですが町長ご存知ですか。これは 7 年前にスタートしまして、住民と行政でどういうプログラムをやるか決めて行っているんです。毎月一回行っていて 4、50 人集まるんです。町はそういう事業をちゃんとやっている。今度介護保険法が改正になりますよね。行政の事業はやめて住民でやってくださいと。なぜこの「健康塾」という事業がこれだけ人気で長く続いているのか、現場の方とよく相談して続けていただきたい。4、5 名しか集まらない事業を毎年やるんじゃなくて、人気のある事業を行政と住民が一緒になってやる。こういうことが、介護費用や医療費を削減することに繋がるんです。いなべ市は「元気大学」という事業を積極的にやっているんです。こういったことをご検討いただきたい。

町長

まず一つ目の在宅医療の話ですが、石賀先生とはいろいろ話をさせていただいて、

東員町は全域、いしがクリニックの守備範囲に入っています。ただ、東員町さえ良ければいいのかという話になってきますので、私はこの問題は、桑員地区で考えていかなければならないと思います。私の考えですが、石賀先生のところの分院に東員町へ来てもらうことで、桑員地区の大部分をカバーできればと思い、働きかけをしています。ただ、場所の問題とどのように来てもらうかについて、桑名広域連合の中で投げかけたんです。しかし、桑名医師会と員弁医師会と医師会が違い、医師会同士の連携が難しく、話が止まっています。医師会同士を行政が動かさなければと思ってはいるのですが、なかなか難しいようです。しかし、このことについては前向きに考えていかなければと思っています。

二番目の話ですが、前から介護予防教室などの話はお伺いしていましたが、皆さんに利用してもらっているものについては一度整理して、利用の少ないものについては考えたいと思います。どのようになったかは、また後ほどお知らせさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

女性

東員町は特に PR できるような物がないから、5 年後を目処にブドウやブルーベリーを作っていくという話だったんですけど、行政と一緒にこの事業をされているのは、高齢者ですか、それとも事業主ですか。5 年後に成功して事業に発展していけば、会社のような経営も成り立つと思うのですが、これが「事業主＝高齢者」だったら、平均寿命も健康寿命も延びると思います。

それからもう一つ、ふるさと納税のことです。ここは団地もあるので、団地から出て行った子どもたちがふるさと納税をしてくれたらありがたいんですが、東員町には納税する魅力が無いのか、1 件か 2 件しかないと聞きました。本当ですか。

町長

1 点目のご質問のよろこび農業についてですが、専門家のアドバイザーの先生に来てもらって、町の職員がやっています。徐々に地域の方にも参加していただきたいと思っています。農地は 9 ヘクタールありまして、よろこび農業の隣で、会社に来ていただいて、障がい者が働けるように、農福連携事業を 4 月からスタートしました。そこで手伝いとして、一緒に働いていただいている方は、地元の高齢者の方です。高齢者の方 3 人にも働いてもらっています。現在、障がい者の方が少ないので、3 ヘクタールは確保していますが、半分は使っていません。来年には使えると思いますが、そうすると農業の経験のある地元の高齢者の雇用も増えます。高齢者の働く場所はできてきている、そしてこれからも増えていくと思います。

ふるさと納税の話ですが、ふるさと納税と特産品作りを分けて考えさせていただきたいと思います。ふるさと納税については、おっしゃられたとおり、東員町では 1 件か 2 件、10～20 万くらいしかありません。1 億以上稼いでいる自治体もあります。しかし、私はふるさと納税は、日本を滅ぼす悪法だと思っています。例えば、私が A という町に 10 万寄付したとします。とりあえずその町には 10 万入りますが、お土産みたいな形で半分の 5 万円をくれます。そうすると、私は東員町に 2 千円納めれば

5万円の品物が手に入るんです。寄付された自治体は5万円儲かります。東員町は4万8千円損します。何百万か寄付したら、牛一頭くれる自治体もあったんです。3頭限定で、あつという間に無くなつたらしいです。何百万か納税できる人にはお得なものです。これは誰のための制度なのか。また、自治体全体からすると、寄付された自治体が仮に半分の物を出すとすれば、4万8千円のマイナスです。地方の自治体の増税を促すための制度であるはずが、カタログショッピングのような感覚でふるさと納税が行われています。これはやればやるほど、自治体全体から言えば、個人が儲かる分だけお金が減ります。こんな法律が良い訳が無いというのが私の考え方で、賛成する気はあまりありません。

特産品作りの方は、本当に必要だと思っています。2年前、上げ馬のミュージカルをやったときに、ガトーヴァレが「東員浪漫」というお菓子を作りました。あの箱はミュージカルのポスターがそのまま箱になっています。アントニオでも北勢線のミュージカルのときにいろいろ作ってもらいました。こういうものがいっぱいできてくるといいんです。先ほどお話した、ブドウやブルーベリーを使って、東員町のお土産ができれば町のアピールができるので、特産品作りはとても大切だと思っています。

男性

3つほど意見を出したいと思います。最初に事務方から、少子高齢化、税収が先細りという説明がありました。我々住民からしてみれば、行政からこういう統計を見せられて、年をとって仕方がないとあきらめて死んでいくのもいけないし、役場の方たちも、例えば社会福祉を削りますとか言うのはいけないと思うんです。一緒に考えていきたいと思うのがまず最初の意見です。年少人口をどう増加させるかということと、税収を増やすという問題だと思います。私個人としては、年少人口を増やすことはできませんけども税収のことは一緒に考えていきたいと思っています。町の資源について町長は今、農業とおっしゃいましたが、私はいくつかあると思うんです。空気、太陽、土、水、文化、歴史、何でもないような物を使ってお金にならないか。私にも何ができるのか分かりませんが、それを考える力は持ちたいと思っています。ここに住んで40年になりますが、考え続けて財源にしたいと思っています。住民だけではなかなか難しいので、行政と協力して財源作りをしていけたらと思っています。

二つ目は差し迫った問題ですが、災害が起きた時どうするのかといった問題です。災害が起きた時にどうするか、考えていく場が必要なのではないかと思います。西1丁目から見れば、避難場所は小学校の体育館ですが、小学校区すべてがあそこに集まるわけですから、場所取りでパニックになりますよね。国の方針もあるかと思いますが、町として避難所をどうしていくかが問題だと思います。そう考えると、集会所というのは、住民の命と暮らしを守る大事なよりどころだろうと思うんです。現在西1丁目の集会所については、行政と自治会長さんで会議をしてもらっていますが、一層努力をしていくというのが双方必要かと思います。

三つ目は、住民の問題なんです。自治会運営について本当に悩んでいます。班長や自治会長に当たると大変だから辞める人がいるんです。自治運営ですから住民で考

える大テーマですけども、行政協力員といった位置づけで自治会があるんですから、知らんぷりするのではなく、より良い自治会運営のためご協力をお願いしたい。

町長

まず財政的な問題ですが、申し上げたとおり確かに厳しくなってきました。しかし、東員町には歴史とか文化などがあり、今活動していただいているものの中にもお金になるものがたくさんあると思うんです。そういうものを見つけ出して外からお金を稼いでもらうのが大切なと思います。例えば、中部公園にせっかく来てもらっても、お金を落としていってもらうような仕組みがないんです。我々としても真剣に考えないといけない。少なくとも公園の維持管理費を税金から出すのではなく、あそこで稼がないといけないという話をしています。大社祭でも、外から来た人が店を構えてお金を全部持っていってしまうことが起きているんです。そうではなく、地元の人が儲かる仕組みを何か考えないといけないと思うんです。土地がないので企業誘致は難しいですが、可能性はいろいろあるので、町内で外からお金を稼ぐためにご努力をいただきたいと思います。

二番目の災害についてですが、避難所は全て小学校区になっています。避難所に来ていただく方は、対象地域の一部と計画しており、全ては予定していません。この集会所ですが、先ほどこの山を登らせていただいて上から見させてもらったのですが、この奥の山を削って、土地を作り、集会所を建てていただくことを計画しています。自治会の資金的な問題もあるかと思いますが、その時期になったら相談させていただきたいと思います。

それから、自治会の問題ですが、自治会を抜けられる、入らない方が最近増えてきています。例えば、転入の方に自治会加入のご案内はさせていただくのですが、行政ができるのはそこまでです。そのような状況で、自治会加入率は下がってきています。行政としては、行政サービス、同じ町税を頂いているという観点から自治会未加入者とサービスの差をつけることはできません。自治会未加入者と加入者の行政サービスを同じにするにはどうしたら良いか、自治会長と相談させていただいている状況です。この問題については、自治会長会の役員会をお願いして、相談に乗っていただきたいと話をさせていただいています。大変微妙で繊細な問題だと思うのでしっかり取り組んでいきたいと思っています。

男性

この地域づくりというのは、はるか前の町長が東員町は単独で行うといった流れから来ているものだと思うんですが、当時県会議員だった水谷町長は合併を推進されていたかと思います。そのときの立場ではなく今はどう思われますか。

また合併に当たっては、メリット・デメリットどのようにを考えているのか、合併を検討しているのかお伺いしたいと思います。

町長

私が県会議員をしており、合併を推進していたころは、員弁郡が5町ありました。商工会や体育協会など、住民の関わりの中で員弁郡でまとまって行っていることがた

くさんありました。ですから、合併するなら員弁郡か桑名も含めるかのどちらかだという立場でした。ただし、合併が必要かどうかは、正直その当時はあまり考えていなくて、当時の合併しなければならないという流れからなら、この案だという立場でした。今の考えだと合併しなくて良かったというのが正直なところですよ。合併したところとしなかったところのデータを比べると、サービスでも財政面でも合併しなかったところのほうが良い。例えばいなべ市は4つの庁舎を持っています。人件費も4つのものが一つになりました。いろいろな問題を抱えていまして、住民の皆さんにとってかなり厳しい状況にあると思います。

日本全体から見ても、合併したところのほうが財政的に厳しくなっているんです。ですから、私は東員町が20年、30年先にも単独でがんばっていけるような土台を作らなければいけないのかなと思っています。

男性

二点お伺いしたいと思います。今「これからの地域づくり、町づくり」ということでお話いただいているわけですが、今日のお話を聞いてもう少し突っ込んだらいいのではと思ったこととお話します。

一点目は、今日の資料では、東員町の地区別人口の推移を過去形で表しているんですが、これに将来推計が本来あるべきものだと思うんですが、いろいろ難しいこともあるかと思っています。今日の資料で何が欠けているかと言いますと、東員町の最大の問題である、合計特殊出生率。女性が生涯産む子どもの数ですが、東員町は三重県の中で下から二番目と聞いています。東員町は1.28という悲惨な状態にあります。それをこのネオポリス、在来地区に置き換えると、町としては1.28なんですが、ネオポリスでは1.2を下回るのではないかと危惧しています。この合計特殊出生率というものを将来推計に正確に入れて出していたかかないと、これからの目算の基本的なところが狂ってくるのではないかと思います。もう一つは、資料に「高齢人口は増加、生産人口は減少」とあり、これから25年先のことを書いてあります。しかし、30年先、40年先は全くこれとは違います。30年先になると今まで増えていた高齢人口でさえも急激に落ちます。つまり、生産人口だけでなく、高齢人口も落ちるわけだから、全体的に人口は落ちるわけですね。こういった風に正確に未来設計をしないと、この資料だけを見て予想していると、とんでもないことになりますよ。

町長

出生率については、確かに東員町は県で下から2番目です。出生率は何か手を打っていないといけないというのはあります。ところが、実は出生率が低いのに子どもの数は増えているんです。何かというと転入なんです。ここ何年か、40歳より下の人が毎年600人程度入ってきていただいています。出て行く方もいるんですが単身なんです。入ってくる方の特徴は家族なんです。子どもを連れて入ってきてくれる方が結構いまして、若干ですが子どもの数が増えているのが現状です。しかし、出生率が低いことはもちろん良いことではありません。また出生率を上げるにしても、出生率の分母である女性を増やさないと、なかなか子どもは増えないというのはあ

ります。ですから、月並みですが、婚活をやったり、若い女性が東員町に入ってきてくれるような施策ということで、子育て支援をさせてもらっています。少なくとも三重県下で一番子育てしやすい町は東員町だと思います。

人口については、我々としては、転入も加味しながら将来推計を出しておりまして、できるだけ正確に近いものを出したいと思っています。

政策課長 先ほど高齢化率の話が出ていましたが、今日の資料では2040年には30%と出していますが、おっしゃられるように、学校区別で2040年にはどうなるかを現在試算しております。笹尾西1丁目さんでは、合計特殊出生率を1.8に上げたとしても、高齢化率は50%近くになります。ただ、在来地区はもう少し高齢化率が低いので全体で言えば、30~40%になります。しかし、高齢化をおさえる施策や子どもを産んでもらう施策を実施するとともに、高齢者の方にも活躍していただき、高齢化が進んでも持続していくような町づくりが必要だと考えています。

町長 それと空き家や空き地を利用して、若い人が西1丁目にも入ってきてもらうような施策も考えていかなければと思っています。

男性 数字とか統計は何かを見る時にとても大切なことだと思います。しかし私は、ここに40年おります。元気な時は少ないながらに一生懸命納税しました。

みんな共通のことですが見捨てないでください。その辺のところを大事にして、町づくりを進めてください。

男性 町長や行政の方が一生懸命取り組んでおられるのは良く分かっているんです。それで、議会議員というのはいったいどうなのかなって。議員の実態が知りたいです。自治会は一生懸命、自治会や人口のことに取り組んでいるけど、町会議員の方は、苦心が見えないです。ある議会議員は真剣にやっておられます。議会報告も真面目にやっています。そういう方もいるのに20何名かの方はほとんどやってません。それは議員としてどうなんですかということをお答えください。

町長 議会とも一緒に取り組み、議論をさせてもらえればと思っています。